

第76回役員会 議事要録

日 時：平成28年1月15日(金) 14:00～15:00

会 場：大学本館 E-703会議室

出席者：石原理事長、近藤副理事長、利島理事、片山理事、梶原理事、松尾理事、江本理事
(オブザーバー) 中野(利)監事、漆原副学長、柳井副学長

議 案

- 1 ノッティンガム大学との学術交流に関する大学間覚書締結について

報 告

- 1 環境 ESD プロジェクトにおける「青空学」の実施について
- 2 教員の採用について
- 3 NHK 北九州放送局との共催イベントについて
- 4 平成27年度卒業予定者の就職内定状況について

議案1 ノッティンガム大学との学術交流に関する大学間覚書締結について

<質疑応答>

- 以前から実施している語学研修の協定を包含しているか。
- 語学研修はすでに協定を結んでおり、継続して実施している。
- 修士課程が1年となっているが、ここでは1年で修士課程が取れるということか。
- 欧米の大規模な大学は、修士課程と博士課程が一貫しているプログラムが多いので、学部、学科等によるが、1年で修士が取れるところも結構ある。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

報告1 環境 ESD プロジェクトにおける「青空学」の実施について

<質疑応答>

- アジア未来会議という国際会議が9月の終わりから10月に開催される。そのキックオフイベントとして、昨年11月に同じように行政の立場から公害について少しお話しいただいた。機会があればコラボしてはどうか。可能であれば、アジア未来会議の中でプレゼンできればよい。
- 第2回アジア未来会議の時には、次回開催校ということで学生と一緒にプレゼンを行った。その中でも本市がユネスコに指定された環境都市の一つであるということに興味を持っていただいたので、できればどこかの機会で発表していただきたい。
- 公害を克服していった歴史や物語を伝えるのも必要であるが、なぜ北九州にこれほど酷い公害が出る街になったのかが重要で、理由としてモノを作ったからである。その作り方は決して悪い作り方をした訳ではなく、世界的にある技術レベルで作っていた。しかし生産量が多いことや、一部使う材料の良し悪しで公害が発生した。ただ、それはすごい産業であったということも併せて説明することが重要である。悪い街が良くなったということだけではなく、歴史の背景があるから素晴らしさが引き立つ。多くの生産量があったからこの街は豊かになったのである。公害の悪い部分だけでなく、歴史があり、すごい街だったということも併せて言ってもらくと、更にこの偉大さが理解できる。学生たちには、そこも一緒に勉強してほしい。
- 民間企業は、公害克服に2,500億円投資している。生産とは関係のないお金を使って、他社との競争力は無くなるが、北九州に残ってそのまま生産を続けることができた。企業とコラボし、市民も企業も納得したという公害克服の最後の部分をもう少し言わないとはっきりと理解できない。克服の過程だけでなく、その後の話も付け加えるともっと良い。
- こういうストーリーは非常に重要なことで、この頃日本はどのような時代だったのか、そしてものづくりの街として発展していったという経緯を踏まえ、負の遺産を克服したと言える。
- 発足してからまだ半年のため、今後活動を続けていく中で、皆様のご意見を参考にしながら良いストーリーを作っていきたい。

報告2 教員の採用について

<質疑応答>なし

報告3 NHK 北九州放送局との共催イベントについて

<質疑応答>

- NHK との共催は以前より回数は増えてきたのか。
- これまではほとんど共催イベントの実績がなかった。70周年事業とも重なるので、いい機会であると考えている。
- 視聴率はどのくらいだったか分かるか。
- 伺っていない。

報告4 平成27年度卒業予定者の就職内定状況について

<質疑応答>

- 平成27年度は、就職活動の期間がこれまでより4ヶ月後ろ倒しになった為、10月1日の時点で昨年よりも減少していたが、就職活動の学生や事務局の対応により2ヶ月間で改善させた。それから、これまでは、特に外国語学部や文学部では就職に関してはあまり積極的ではなかったが、既に昨年を超えているという状況であり、就職活動の指導が進められていると感じている。
- 今年は進路の把握率が高いという事であるが、教員の努力だけでなく、キャリアセンターの職員がかなり努力し、直接学生に連絡をとって確認している。今後は学部とも連携を取りながら、できる限り把握率を100%に近づけていきたい。
- 本学が全国の国公立の平均よりも2%近く内定率が高いということで、先ほどの話にもあったように内定状況はきちんと把握しているとのことであったが、内定状況の中身はいかがか。
- 進路の把握については、10月以降、2ヶ月毎に先生方の協力を得て行っている。これまでは把握率が低いということもあったため、キャリアセンター側とても報告の出していない学生には電話や呼びかけ等で、少しでも状況把握に努めている。その状況を把握することが、次のステップである就職先のマッチング等につながると考えているため、今後もそういう努力は積み重ねていきたい。
- それによって色々情報が入る中でまた新たな就職支援対策を考えるということか。学生が非常に優秀であるということと言えるのか。
- 色々な学生がいるため一概には言えないが、その点についても先生方と協力して指導していきたい。
- 学生達も就職イベントを開催し、またキャリアデザインをはじめとした科目の授業により就職の意識が高まっているだろう。